

## 令和7年度大学入学共通テスト実施要綱発表 ～ あと 215日

- 出願期間 令和6年 9月25日(水)～10月7日(月) ※『受験案内』は、9月2日以降配布予定。  
 ※現役生の出願は、高校を通して行います。個人で出願はできません。校内締切は9月中旬の予定です。
- 検定料 3教科以上を受験する場合 18,000円(成績通知手数料+800)  
 2教科以下を受験する場合 12,000円(成績通知手数料+800)
- 実施期日 本試験：令和年1月18日(土)、19日(日)  
 追試験：令和7年1月25日(土)、26日(日) ★参照:大学入試センターHP
- 時間割 ～ 想定通り

試験日	出題教科	出題科目	試験時間
第1日	地理歴史 公民	『地理総合、地理探究』 『歴史総合、日本史探究』 『歴史総合、世界史探究』 『公共、倫理』『公共、政治・経済』 『地理総合/歴史総合/公共』(注1) 『旧世界史A』『旧世界史B』 『旧日本史A』『旧日本史B』 『旧地理A』『旧地理B』 『旧現代社会』『旧倫理』 『旧政治・経済』 『旧倫理、旧政治・経済』	2科目選択 9:30～11:40(注2) 1科目選択 10:40～11:40
	国語	『国語』	13:00～14:30
	外国語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』 『中国語』『韓国語』	『英語』【リーディング】 『ドイツ語』『フランス語』 『中国語』『韓国語』 【筆記】 15:20～16:40  『英語』【リスニング】 17:20～18:20(注3)
第2日	理科	『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』(注1) 『物理』『化学』『生物』『地学』	2科目選択 9:30～11:40(注2) 1科目選択 10:40～11:40
	数学①	『数学Ⅰ、数学A』『数学Ⅱ』 『旧数学Ⅰ・旧数学A』『旧数学Ⅱ』	13:00～14:10
	数学②	『数学Ⅱ、数学B、数学C』 『旧数学Ⅱ・旧数学B』『旧数学Ⅲ』 『旧簿記・会計』『旧情報関係基礎』	15:00～16:10
	情報	『情報Ⅰ』『旧情報』	17:00～18:00

(注1) 『地理総合/歴史総合/公共』を選択する場合は、「地理総合」「歴史総合」「公共」の三つの出題範囲のうちから、必ず二つの出題範囲を選択解答するものとする。『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』を選択する場合は、「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」の四つの出題範囲のうちから、必ず二つの出題範囲を選択解答するものとする。

(注2) 地理歴史及び公民並びに理科の試験時間において2科目を選択する場合は、解答順に第1解答科目及び第2解答科目に区分し各60分間で解答を行うが、第1解答科目及び第2解答科目の間に答案回収等を行うために必要な時間を加え、試験時間は130分とする。

(注3) リスニングは、音声問題を用い30分間で解答を行うが、解答開始前に受験者に配付したICプレーヤーの作動確認・音量調節を受験者本人が行うために必要な時間を加え、試験時間は60分とする。

### 「大学入学共通テスト」の意義を再確認しよう

令和7年度大学入学共通テスト実施要項(一部右頁参照)が発表されました。「共通テスト」の存在意義・験の意義を再確認しておきましょう。毎年『共通テストの得点が目標に届かず、多くの先輩たちが苦戦を強いられてきました。彼らはなぜか『共通テスト』を「失敗」したと口にするのですが、「失敗」ではなく「準備不足による実力不足」なのです。各自必ず目標得点率がクリアできるように、「共通テスト」から逆算して、学習スケジュールをしっかりと立て、対策を怠らないようにしてください。

国公立大進学希望者にとっては言うまでもなく、「共通テスト」は1次試験となります。学校推薦型選抜(旧推薦入試)や総合型選抜(旧AO)などでも「共通テスト」受験を課すケースが多くなっています。難易度や「共通テスト」と2次試験(個別試験)の配点ウェイトなど大学によって、目標得点率は異なりますが、「共通テスト」高配点の大学は逃げ切り合格の可能性が大きくなります。高得点できたら、旧帝大など難関国公立大といった激

戦入試でも戦える可能性が高まります。難関大の個別試験といえども勝負の分かれ目は基本問題（受験生の多くが解ける問題）でしっかり得点できるかどうかだからです。またいずれの大学の場合も「共通テスト」目標点突破により、余計なプレッシャーや焦りを感じることなく2次試験に臨むことができます。

**私立大進学希望者**にとってもメリットはたくさんあります。私大を第一志望としている人にとっては、「共通テスト」は本命試験直前の最大の模試となります。緊張感・時間の感覚など様々な要素を体感できます。現役生はこうした経験を糧に本番まで伸びていきます。いわゆるすべり止めの大学を「共通テスト」利用方式で押さええる可能性は高まり、受験スケジュールも楽になり、第一志望大学受験に集中することができます。

2021年度入試以降「共通テスト」を新規利用した大学や「共通テスト」を必須化した大学も増えています。（指定校推薦でも必須化する大学あり）

「共通テスト」は偏りがなくバランスのよい、教科書レベルの問題が出題される一方で、得点率8割は簡単には超えられない、努力を要する試験のため、国公立大志望か私立大志望かを問わず、すべての受験生にとって格好の学力のパロメーターとなります。

## 「参考書選び」のキホン

「みんな使っているから」「なんとなく良さそうだから」そんな理由で参考書を選んでいませんか。「今さら参考書？」と思う人は、『参考書』を『問題集』に置き換えて読んでください。

参考書は慎重に選ぶ必要があります。なぜなら勉強の成果は参考書によって大きく左右されるといっても過言ではないからです。参考書選びには「5原則」があります。

### 原則1. 学習目的を明確にする

基礎を固めるのか、応用力をつけるのか、人によって参考書を用いる目的が異なります。さらに、それに対応して、暗記・理解・演習のどこに重きを置くのかも変わってきます。

最初に学習目的を明確にしておくことで、選ぶべき参考書も絞られてきます。

### 原則2. 自分の学習状況に即したものを選ぶ

あまりに難しすぎるものを選んで、内容を理解できずに消化不良に終わりますし、逆に簡単すぎるものを選べば、学力のステップアップは期待できません。目安として、実際に参考書に目を通してみて「7~8割理解できるが、残りの2~3割は分からない」と感じたものがちょうどよい難易度です。

### 原則3. 解説が詳しいかどうかチェックする

特に基礎固めの段階にある人は、これを重視するべきです。

### 原則4. 適切な分量を見極める

適切な「分厚さ」のものを選びましょう。あまりに分厚すぎると、勉強意欲が続かず途中で投げ捨ててしまいかねません。自分が最後までやり切れると判断したものを選びましょう。

### 原則5. 評判はあくまで参考程度

人によって意見は異なるので、評判をうのみにすることは禁物です。実際に参考書を手に取り、内容に目を通してから自分で判断するようにしましょう。

## 期末テスト直前~夏休みいっぱいまで … この時期何をすべきか？

今はとにかく基礎力養成期です。徹底的に固めてください。基礎がおぼつかないのに、早々と赤本や入試対策問題集に手を出しても、結局伸び悩み最終的に失敗することが多いです。「共通テスト」対策も私大対策も同じです。現時点では、赤本は傾向を見る程度でいいでしょう。先ほども触れましたが、難関国立大の2次であれ、難関私大の試験であれ、基本問題を落としたらアウトです。弱点分野を必ず徹底的に補強しましょう。”**急がば回れ**“です。

裏面に 2025 年度入試情報(駿台入試情報研究会より)